



樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和5年5月31日

三条生躍動！三柏戦・高体連支部大会に全力で臨む



◆三柏戦11連覇。通算成績でも勝ち越し！

4月28日、明治北海道十勝オーバルにて、第64回三柏戦を開催しました。久々の全員が一堂に会しての開会式。伝統の応援合戦は、柏葉高校、三条高校の順で実施。両校ともに、コロナ禍による影響を感じさせない声量と団結力を見せました。結果は、一般交流・部活動交流の結果から、11勝7敗1分けで三条高校が優勝を果たしました。通算成績も「29勝28敗4分3中止3開催せず」となりました。



◆北海道高校総体目指して全道大会へ

3年生にとって最後の高体連。コロナが第5類移行後の大会となりましたが、選手以外の立ち入りを認めていない競技もありました。本校はサッカー、アーチェリー、ハンドボールの当番校として大会運営にあたりました。いずれの競技も滞りなく終了し、その責任を果たすことができました。運営にあたった先生方、生徒諸君、ありがとうございました。当番校業務をしていると身に沁みてわかることは、本当に多くの方々の協力をいただいて大会が実施できているのだということです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、全道大会出場を決めたのは次の部です。全道大会でも頑張ってください！

- ・男子バドミントン部(団)
- ・女子バドミントン部(個2)
- ・卓球部(男子団・個2)
- ・男子ソフトテニス部(団・個1)
- ・女子ソフトテニス部(個2)
- ・男子テニス部(団・個1)
- ・女子テニス部(個2)
- ・アーチェリー部(団・個10)
- ・陸上部(個23)
- ・男女ハンドボール部
- ・ソフトボール部
- ・水泳(個2)

教育実習終了 ～ 実習生からのメッセージ

◆佐藤 庸至 (数学：室工大)

思い返してみると、高校3年間はあるという間に終わったように感じます。“3年間”という字面から受ける印象と、体感する3年間の流れには大きな乖離があります。ぜひ、その日その日を大切に過ごしてください。

◆丸山 駿 (公民：北星学園大)

人生で一度きりの高校生活。この3年間は間違いなく一生の宝物となります。将来に向けた勉強に励みながら、最高の仲間たちと最高の学校で切磋琢磨し合い、全力で楽しんでください！皆さんの「青春の栄え」を！

◆小野 順平 (化学：金沢大)

今この時は再び訪れることのない貴重なものです。勉強や部活、友達との付き合いなど、高校生の今しかできないこと、

今だからやるべきことが多くあると思います。今を大切にお過ごしください。2週間お世話になりました。

◆大津 千紘 (国語：北海学園大)

私は日記をつけることを皆さんにすすめています。自分に素直になって書いてみてください。後から見返すのはとても勇気がいりますが、きっと未来の自分に“何か”をもたらします。

◆若原 楽 (保健体育：日体大)

自分の好きなことや興味のあることを探究し、継続して頑張っていくことが、自分の将来に繋がっていくのではと思います。その中の挫折や苦悩も、きっと自身が一番成長できるチャンスです！何事にも全力で楽しんでください！



今年度のスクールカウンセラー

佐々木先生をご紹介します

今年度、スクールカウンセラーとして月に一度のペースで本校に来ていただくことになった佐々木あずさ先生からのメッセージです。

4月からお世話になってます。

親の転勤で北海道、東北、関東などで子ども時代を過ごしました。そのせいか、あちこち移動することが大好きです。20代はアルバイトをしてお金をためては国内外を気ままに歩き回り、旅先で出会う人、食べ物、匂いや喧嘩を楽しんできました。

落ち着きがなくてボーっとした子どもでしたが、こうして自分の人生を愉しんでいます。引っ込み思案で人見知りが強かったため、小学1年の時には校長先生がいっぱい気にかけてくださいました。そんな私も今ではおしゃべりで人前に出ることをいとわない人間になっています。

年齢を重ねるにつれて面白い出会いと学びに恵まれ、ドキドキワクワクを楽しんでいます。どうぞよろしく申し上げます。



第29回 1年次主任 山室浩二 教諭

「前向き ひたむき 上向き」を合い言葉に！



◆人との出会いが生きる方向を決めてくれた

中学の担任の先生は3年間受け持ちだったのですが、実はその先生のお父さんも教師で、私の父の恩師でした。私はその先生の影響で教師を志すようになったのですが、教員採用試験がうまくいかず大学院に進学することにしました。ところが授業料も納めた3月に、期限付教諭のお誘いがきたのです。そこで大学院を休学して、まずは教員をやってみて最終的に進路を決めることにしました。

赴任したのは道央の農業高校で、自分の高校時代とは全く違う世界でした。個性あふれる先生方に囲まれて戸惑うばかりで何もできずに1年が過ぎました。教員を続ける自信がないまま、大学院に戻るか教師の道が続けていくか悩むこととなります。そんな中で周囲の先生方が色々とお励まし援助してくださって、次の年に鹿追高校の期限付教諭として赴任することになりました。結局、鹿追高校には12年勤めましたが、高校存続のための学校改革に取り組んだ時期でした。私は熱意あふれる先生たちに引込まれるばかりでしたが、どんどん変わっていく生徒たちや学校を目の当たりにして、教育の力を感ずることができました。こうして今、振り返ると、先生方との出会いが自分の人生の方向を決めてくれたように思います。

◆海外での経験から

鹿追高校ではカナダに、その次に勤務した土幌高校ではアメリカに、合計6回生徒を短期留学に引率しました。初めてカナダに生徒を連れて行った時には、国の大きさだけでなく人を受け入れるホスピタリティーに感動しました。生徒たちも拙い英語を使いながら、一生懸命相手の言わんとすることを理解しようとし、またこちら

側の思いを伝えようとしていました。その心の動きや働きかけが日本に戻ってきてから生徒たちに大きな変化を生み出しました。自分が今こうして

られるのは多くの人が関わってくれたお陰なのだということを感じ、そこから周囲に感謝することの大切さに気付くのだと思います。三条の生徒たちにも、ぜひ一度海外に出ていってみることを勧めます。視野が広がり、人間として成長することは間違いありません。

海外では様々なことが起こるのですが、ちょっとしたやりとりも嬉しいものです。初めてのカナダではこんなことがありました。夜にお腹がすいたので同僚の先輩とホテル近くのマクドナルドに歩いて行ったのです。ところが店舗は閉まっていたのですが、どうやらドライブスルーはやっているらしいのです。そこで先輩と歩いてドライブスルーの窓口に行きました。ウォークスルーだといって注文したところ、店員さんたちは「歩いて来たのはお前たちが初めてだ！」といて大笑いしながらオーダーを受けてくれました。楽しい国際交流でした。

◆プラス思考で行こう

例えば人に何か頼まれた時、なぜ自分がやらなくてはいけないのかと思うのではなく、自分にとって何らかのプラスになるんだというふうに思えたらいいですね。気持ちの持ちようですら随分変わってくると思うのです。ですから、私は生徒たちに『前向き ひたむき 上向き』を合い言葉にしようと言っています。まずは私自身がそう行動できるような日々を過ごしていきたいと思っています。

インタビュー

きらり

第64回三柏戦の開会式で宣誓した

3年4組 佐藤 祐滋朗 さん

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。



左が晃滋朗さん、右が祐滋朗さん

まず、宣誓を引き受けるに至った経緯を尋ねると「去年の三柏戦が終わってすぐに、鎌田現生徒会長から兄弟二人でどうかと声を掛けられていたのですが、今回また声を掛けてくれて、2年越しに声を掛けてもらって、引き受けないと男じゃないと思いました」と答えてくれました。弟さんの反応はどうだったのか聞くと『よっしゃー！』ってめちゃくちゃ喜んでました。宣誓

4月28日に第64回三柏戦が明治北海道十勝オーバルをメイン会場として開催されました。その開会式で恒例の宣誓に立ったのは3年4組の佐藤祐滋朗さん。柏葉高校に通う双子の弟、晃滋朗さんとライバル心パチパチの掛け合いで笑わせ、大いに会場を盛り上げました。

文は主に晃滋朗さんが考えて祐滋朗さんが手を入れましたが、ご両親もネタと一緒に考えてくれたとか。WBCでの大谷選手の『憧れは捨てましょう』は、お父さんのアイデアだったそうです。原稿ができてから40回ほど動画をとってチェックしながら修正を加えていったのですが、「最初は面白いと自信をもっていたのに、何度もやるうちに『これって面白いのかな』と思ってしまってみんなの反応が怖くなってきました」。そんな不安を覚えながらの本番でしたが、みんな笑ってくれて良かったと胸をなで下ろし、それどころか、「千人を超える両校生徒を前に緊張するだろうと思っていたけれど、実際に壇に上がってみたら、案外こんなものか、と緊張しませんでした」「やってみないとわからないもんだなあ、と思いました」。続けて「ほとんどの人が経験できないことを青春時代に味わうことができ本当によかったです。自分も成長したなあ実感することができました」と感慨深げに振り返りました。最後に「案外みんなから壇上が見えてたんですね。それなら幽体離脱やればよかった」とポツリ。それは見たかったな〜。

